

## 大阪市イノベーション促進評議会 平成 26 年度第 1 回 会議録

1. 日時 平成 26 年 11 月 14 日（金）9:30～11:00
2. 場所 大阪イノベーションハブ（WEB 会議）
3. 出席者  
松本委員長、藤沢委員、外村委員、吉原委員、田路委員  
事務局（吉川理事、折原課長、角課長代理、小林課長代理）

### ■会議概要

平成 26 年 4 月～9 月の大阪イノベーションハブの活動状況について等

#### （事務局）

- ・平成 26 年度第 1 回大阪イノベーション促進評議会を開催いたします。
- ・開会にあたりまして、ご報告いたします。本評議会の委員長を務めていただいております校條氏が、今般、諸般の事情により委員を退任されることになりました。既に退任の届も提出頂いており、今回の評議会でのご参加もございません。なお、それ以外の皆様は全員出席いただいております。
- ・本日の進行でございますが、昨年度の第 1 回評議会において、松本委員が委員長の職務代理者として指名されておりましたので、松本委員にお願いすることになりますが、改めて委員長を選任する必要もあり、この間の経緯により、松本委員に委員長にご就任いただく事が適切かと考えております。委員長の選任は「大阪市イノベーション促進評議会規則」第 4 条の規定により、委員の皆様のご互選によることとされておりますので、委員の皆様のご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

#### （各委員）

- ・意義無し。

#### （松本委員）

- ・お引き受けします。

#### （事務局）

- ・ありがとうございます。どうぞよろしく申し上げます。
- ・また、委員長の職務代理者について、あらかじめ委員長の指名する委員が就任することとなっておりますので、松本委員長からご指名をお願いします。

#### （松本委員長）

- ・吉原委員をお願いします。

**(各委員)**

- ・意義無し。

**(吉原委員)**

- ・お引き受けします。

**(事務局)**

- ・ありがとうございます。よろしくお願い致します。
- ・それでは、以降の進行を松本委員長にお願いします。

**(松本委員長)**

- ・今回は大変重要な時期。昨年度からスタートしたこのイノベーションハブ、3年間のプロジェクトで今年は2年目、来年度は最終年度で、正念場の中で軌道修正するならこの時期しかないぐらいのタイミングです。そういった意味で、現時点での、特に今年度の実績等の報告を受けて、忌憚のないご意見を今回頂きたいと思います。
- ・ダイナミックなご意見、修正など、現時点では間に合う時期でございます。もう少し先になると後ろが見えてきますが、プロジェクトの期限であったり、大阪市の状況などをあまり考えずにいろいろな視点でご意見をいただければと思います。
- ・最初に、今年度の全体の活動についての中で、特に9月までの上期の実績、イベント、活動の数値的な評価、大阪市の自己評価にもとづいて議論を行いますので、半期の状況を事務局から説明をお願いします。

**(事務局)**

- ・資料1「平成26年度事業（4月～9月）にかかる目標設定とアウトカム（成果）について」、資料2「主なプログラム、イベントについて」説明

**(松本委員長)**

- ・大変盛りだくさんのイベントなので、それだけ沢山の人が集まっているということなんでしょうけど、情報発信や自己評価、課題も報告頂きましたが、委員の皆様、全体としてご意見がございませうでしょうか。個別でも全体でも結構です。

**(吉原委員)**

- ・この半年間についての事務局からのレポートを聞いて、大阪市の方々はよくやっていると思う。大阪イノベーションハブというブランドの認知度の向上というものに対し、一貫性を持ったアプローチでマーケットに向かっていることがよく分かりますし、パイプラインを大きくしようということで、かなり沢山のアクティビティをこなし、量的な目標達成については堅実に前進していると考えています。
- ・プロジェクト創出という、大阪イノベーションハブで大阪府が3億円近い費用を使って、どうゆう成果があるのかということに焦点が当たってきたときに、今年、既に100程のチームの形成があり、チームの中から実際に起業に向かう者がどれだけ出て

くるかということで、下半期の報告を楽しみに思っています。

- ただ、残念なことに、ここでも指摘がありますように、NTTやヤフー、AOLなどの名前が一部出ているが、もっともっと多くの会社のR&D、研究開発の方々プラス、経営企画を担当している方々とのコラボレーションが進められるべきだと考えます。学生の方々も重要ですが、ひとつの大きなスポンサーとして企業の参加がもっと肝要になってくるんじゃないかと思います。
- 松本さんが最初、今年が重要な年となるとおっしゃっていたが、私も全く同感で、3年間を終えたときに、それからどうするのか。大阪市の予算そのものを現状全く考慮せずに豊かな資金があると考えて・・・現実はそのではないのですが、3億円近い費用を使って、ほんとうに未来永劫パブリックサービスとしてすべきなのかと。私自身としては、もっともっと発展的に展開すべきと思っています。昨年も申し上げたかもしれませんが、2年目を使って3年目に大きく展開するために、この大阪イノベーションハブが本当の意味で日本を代表するイノベーションハブとなるために大きな目標を持って、例えば3年経ったところで、アクティビティの中に、追加機能として、本格的にインキュベーション、アクセラレーターの役割、つまりファンディングもするし対価として株主にもなるという意味で、ノットプロフィットでなく、利益目的の組織に変わっていく必要があるのではないかと。逆にいうと、大阪市がファンディングする役割、パーセンテージももっと小さくなって、理想を言えば関経連のような組織とともに、また経産省が大学にベンチャーファンドとして多額の資金を注入していますが、大学等教育機関とのJV、もしくは近隣の府県との共同事業に転換すべく、大きく変わる年として3年目を使うべきじゃないかと感じています。
- この半年だけを見たときは、皆さん良く頑張っておられると思います。

#### (松本委員長)

- ありがとうございます。情報発信の数値目標、イベント数については目標に達している。3年以降、どう継続的にやっていけるかということになると、中身をもう少し変えていかないといけないというような意見がございましたけれど、イノベーションハブには沢山の方が来られています、層としては、学生とかベンチャーが多いのでしょうか？

#### (事務局)

- 大阪ハッカーズクラブのメンバーですが、今約400名程います。そのうち、実際自分で新しく何かをやりたい方が300、それらをサポートしたい企業や大学などが100です。その300のうち、だいたい3割くらいがIT、ウェブ関係の企業の方です。電気関係の製造業がだいたい1割、どちらかというと支援したいというコンサル的な人も15%位おられます。今、吉原委員のご指摘にもありましたが、我々の人件費を合わせて3億円ほどの事業、この事業だけでは2億円の事業費ですが、これを3年間続けていくわけですけれども、3年目以降どうしていくかは大きな問題でして、パブリックな関与を下げていくべきだろうと考えております。それを下げるにあたっては、力のある企業や財界を巻き込まずに、大阪市のコミットだけを下げると、事業を縮小す

ることになるので難しいと思う。

#### (松本委員長)

- ・他の委員の方はいかがでしょうか？

#### (田路委員)

- ・過去いろいろなイベントをやると、起業をしたい人よりも、支援したいそれもコンサルのように仕事が欲しい人が多くなる。ここでは、コンサル的な人が 15%程度ということで低いかかと、これは良かったと思う。ずっとイベントを見ていると、いまどきの IT、ウェブとかモバイル関係も増えているし、中大企業ともコラボしておられるので、私が評議員をお受けしたときから考えて、すごく活動は活発にされていると思う。
- ・あと、巷でイノベーションハブの話をするんですが、大学の教員にここに来たことがあるとか知っているとか、私が所属している学会は組織学会とかベンチャー学会なんですが、皆さん「知っているよ」とか、「田路さんもあそこで何かしてるんだ」とか普通に会話に出てくるようになった。昨日、大阪市立大学のアントレプレナーを研究している知人の授業に友情出演したんですが、その学生さんが、このハッカークラブに入っているベンチャーにインターンシップに来ていると言っていて、そういうことが大事だと思う。みんなが知るようになって来るようになる。その子は農業のベンチャーをしたいという意欲のある子で、ここに来るといろんな人に会えると言ってます。それがすごく重要だと思う。すぐにイノベーションの効果が出なくても、若い人が覚えていて三十になるまでにはどうにかしようと思う人が増えてくるのが重要だと思うので、私の感覚からするとかなり根付いているように思う。それは教育者の立場からするとすごくうれしいと感じています。

#### (松本委員長)

- ・確かに初年度に比べますと、マスコミへの発信力、取り上げてもらっている数も相当増えてきている状況ですし、これはやっぱりブランディングの効果なんですかね。大阪イノベーションハブってブランドに統一したのが、今年度冒頭なんですよ。ブランディングって大事ですよ。これだけイベントをやって、これだけ人が集まってくると、やっぱり時間が経つにつれて認知度が上がってきている効果かなと思います。
- ・他の委員の方はいかがですか？

#### (藤沢委員)

- ・私も吉原委員がおっしゃったことに 120%賛成なんですが、成果においてもそのとおり素晴らしいと思いますし、合わせて財源の方も 3年の期間が終わった後に独立しようと思えば大企業の巻き込みがとても重要で、その際にやはり、企業にとってここに関わることの意義というものを理解していただけるような、何かそうゆう動きをつくらないといけないのかなと思います。例えば海外でも最近あたりまえのことと思わ

れていますが、新しいプロダクトをつくる時には何割かオープンイノベーションでつくる若しくはほぼ100%オープンイノベーションでつくっていくということを結構いろいろな企業の方がおっしゃっていて、今年のダボス会議でも3MのインゲCEOがそんなスピーチをされていましたが、そういった世界の大企業のメーカーがオープンイノベーションでプロダクトをつくっているのかというような情報発信も、今度は企業向けのセミナーみたいなものも合わせてやって、そのプラットフォームとしてここを使いましょうというような、何かアプローチをしていくというのはひとつの考え方としてあるのではないかと。今まで若い人向けにいろんなことをやってきたのだけれども、企業向けの事をやって、企業からもこちらにコミットしてもらってお金も出していただいて一緒にオープンプラットフォームを育てていこうというような作りができればよいのかなと。

- ・あと、もう一点だけ、海外の方の巻き込みが少ないということが最初にあったのだけれども、日本には沢山留学生が来ていますので、まずは留学生が集まれる場としての何か位置づけをつくってはどうかと。留学生であれば日本の企業も採用したいと思えますし、日本語が話せて外国人であるということであれば、企業としても採用対象として魅力があると思えますので、そのアクセスポイントとしてここを使っただくことも考えてみてはいかがでしょうかと思いました。以上です。

#### **(松本委員長)**

- ・ありがとうございました。大手企業の巻き込みをどうしていくかというような意見もありますが、一部、NTT西日本が参加しているということはあるようですが、まだ圧倒的に数が少ないのと、大手がここへ来て何かやる、あるいは聞きにくる、参加するということが少ないのが実績として出ているということですね。
- ・私は、大学で教えているので一部の学生は知っているんですけども、どちらかというと起業家の方か学生よりも、大手企業との情報交換が多いのですが、圧倒的に皆さん知らないですね。だから宣伝しているんですけども、もう少しその辺がどうでしょうというのが、藤沢委員からのご意見でした。
- ・外村さん、いかがでしょうか。

#### **(外村委員)**

- ・皆さんの言われたことに賛成で、あまり付け加えることないのですが、敢えていうと、一番最初ですね、外部の巻き込みの部分が実際どれだけ伝わっているかということと、英語での情報発信が少ないと言われていた資料1の方ですね、そこを含めると、現状、確かに日本語では初期の頃に比べるとアクティビティも多いしコミュニケーションも多いので目につくんですが、さきほどあったように、そのチャンネルで案内を英語でやっても仕方ないというのはその通りだと思います。関東であれば、IT業界を中心として英語でアジアや米国に対して情報発信する日本発のメディアが幾つかあるんですね。そうゆうところを把握しておられて、一昨年、みなさん大勢来ているように見えて、実は大阪のテレビばかりで、大阪以外の方は見ていないというような事を言ったが、それと同様で、外国に体があって英語の目しかない場合に、情報を出して

いるところを把握されているのか、過去のイベントに呼ばれているのか、英語の告知をそうゆうところに出されているのか。大阪発でそうゆうメディアがあるのか私は知らないんですが、少なくとも東京発のメディアを把握して、大きなイベントとか、そこから生まれた起業家にインタビューしてもらおうとか、そうした個別の活動で、そのサイクルが回るようにした方がいいのではないかと思います。これは英語+アウトゴーイングを重ねた部分でのひとつのサジェスションですね。

- イベントの方は、1年目からそう思ったんですが、びっくりしていて、役所がやっていると思えないほど様々で、外部の者を巻き込んで非常にインプレッシブなものかと思えます。これだけ沢山あって、これ以外にも沢山あるんでしょうけれども、枠でこれだけやりましたっていう報告になるんですけども、幾つかのもの、特に規模がどうだったか沢山来場があったというようことではなくて、内容的に刺激があったと思われるようなものを幾つか選んで、これによって何が変わったというような参加者の声を拾われ、それを報告書に入れた方がいいのではないかと。これも前回だか前々回だかで、マスでの数字、何人来たかとか何%いったとか言った話も必要ですが、個別にこうゆうコメントがあったとか、こうゆうふうなアクションになったとかも、もうちょっと見せて欲しいという話があったかと思うんですが、この後で説明があるのかもしれないませんが、参加者がどう思ったか、どう変わったかという生の声が足りないと思います。やはり、やる側の視点が多すぎると思ったので、たぶん、これだけのことをやっているんで、それぞれのイベントで、プラスの方向に影響を受けた事例もあると思いますし、事例としては MOFF のバンドが出来ましたぐらいの事ぐらいかもしれませんが、そこから会社ができたとか、そこからキックスタートやってみたとか、これにきた後にシリコンバレー行って見たとかの事例があるとぜひ見たいと思います。そこまでいかないにしても、参加者からアンケートをとるとか、ときどきランダムに抽出して個別に話を聞くとか、そういった意味の平均化しない効果測定もおやりになると、非常に大きなヒントが含まれているのではないかというふうに思います。それは次回のまとめ方としてメモっておいていただければいいかなと思いました。
- 大企業の巻き込みが足りないというのは、これは大企業が悪いと思うんですけども、私にはあまりダイレクトな方策は無いですね。ひとつご参考になればというのは、全然違う巻き込み方で、去年とか一昨年は異業種のハッカソンを一生懸命説明されていたと思うんですけども、東京とかシリコンバレーでは当たり前になってですね、最近はさらに、外部ということで、シリコンバレーでエバーノートと伊藤園の人とやったチャッカソンという。お茶だから「茶ッカソン」なんですけれど、これはいわゆるハイテクでも機械でもなんでもないハッカソン、実際はアイデアソンなんですけど、米国でも記事になったし、渋谷のヒカリエでもやったんですけど、今やっておられる真正面な真面目なテクノロジーともものづくりを合わせたハッカソンと少し違うところであって、これが非常にまた、違う層に影響し、面白いアイデアが出てきているんですね。これも研究されて、必要あれば東急なり伊藤園の携わったメンバーを紹介しますので来年、大阪版をやってみられるのもいいのかなあと思います。
- 最後に、これに直接関係ないんですけども、そちらの局の皆様、メンバーの皆さんにサゼッションは、僕も一昨日行ったんですけども秋葉原にDMMという会社がシリコンバレーで言うテックショップをつくったんですね。DMMはものづくりの会

社ではないんですけれども、5億円くらいかけて秋葉原の目の前にある富士ソフトのビルにもものづくり拠点とコワーキングスペースをつくったんです。こういうのは日本には全然なくて、私は危機感を持っていたんですけれども、去年は大臣が来るたびに向こうのテックショップに連れて行って、こういうのが日本にも必要だと言っていたんですけれども、その後でテックショップと富士通が提携して日本でやるっていう報道であったんですけども、その後聞いたらその時の社長が関連会社に移ってしまって話が中断しているというのを聞きました。まあ正確なところは分かりませんが。と言っていたら、全く脈絡の無いところでDMMがそれをつくったので、まずは一度東京出張の際に行かれて、何があるのかということを見て来られればいい。1年ほど前に、（大企業のオープンイノベーションが）ものづくり（中小企業）と融合しないという話があったときに、どなたかが、「東大阪のおじさんは、こうゆうところは来てくれなくて、何度も行って気に入ってもらわないと腰を上げてくれない」という話されていましたが、そういう事を言ってる間に、テックショップはそんな敷居の高さが全くなくて、ある場所に来て月の会費150ドル程度を払うと、もういわゆる何千ものプロトタイピングがそこで出来てしまうというのが、ガーっとひろまりつつあるというのがあったんですけれども、それが秋葉原のど真ん中に今週出来たので、本当は大阪に先にあってもよかったのですが、とりあえず、メンバーの皆さんは東京に行かれる際にはぜひアポを取ってご覧になって、正直、しまった先にやられたと、それで大阪どうするんだと考えられたらいいんじゃないかと思います。すみません、直接関係の無いことだったんですが、時間がなくなるかもしれないので先に言わせていただきました。以上です。

#### **（松本委員長）**

- ・ありがとうございます。ここに来られた方々の意見とかアンケートとか評価とか、これはヒアリングをされてはいるんですね。ただ、今日の資料を見ますと、メンバーズクラブへのヒアリングだけで、なんかこう、実際プロセスを経験された方の意見は別途集約されているんですかね？ その辺をうまくまとめて行かれたらどうかという意見もございましたけれど。

#### **（事務局）**

- ・外村さん、有益なご意見ありがとうございます。各イベント、プログラム、特に主催で実施しているものはアンケートを取っております。ただ、そのアンケートも一般的なアンケートになっておりますので、本当に参加してどう変わったかとかはなかなか難しい面もあるのかなと思います。ただ、私たち自身がこの場所におりますので、顔もつながっている人たちも多いですから、実際の思うところを吸い取ってですね、今年度末の報告の時にですね、まとめたいと思っています。

#### **（松本委員長）**

- ・あと、プロジェクト創出のところを、今後頑張ろうということですよ。あまねくいろんな人たちが来て活用して、非常に盛り上がっているのは、場所が非常にいいとい

うこともありますけれど、やはりスター、特徴的な成功を育てていくということが必要で、それがブランドも押し上げていくことにもなると思うのですが、その辺のところはいかがですか？何か事例がありますか？

### (事務局)

- ・スターというか成功事例として一番華々しいのが、Moff。第1回のものでアプリハッカソンで出会ったチームがですね、一年間くらいピボットしながら製品開発をして、実際に今商品としてリリースしているスマート・トイ（玩具）です。こちらは日本のアマゾンでは妖怪ウォッチに次いで電子玩具の売上では2位の実績を残しております。まずこちらが大きな成果とっておきまして、そこの代表者は日経系のイベントに沢山出演されたり、テレビ番組でも取り上げられています。
- ・それから最近ですが、去年シャープ様と行ったコ・クリエーションジャムというイベントがあったんですけども、こちらの成果で「ココロボ」というロボット掃除機の新しいコンセプトとして、性格付けをするというアイデアが出まして、そこで出た性格付けは「ツンデレ」という、サブカルっぽい性格付けなんですけれども、女の子がなかなか素直になれないことを表した「ツンデレ」という言葉をベースにした開発コンセプトを出しまして、実際にそれが今11月7日から製品化のステージに入りまして、シャープ様が生産の受付をしているという状況です。大手家電メーカーがハッカソンのような開発イベントで生まれたアイデアを実際に製品化までもっていくことでは、恐らく日本で初めての事例とっておきます。こういった大企業とのコラボで製品化みたいなのが今後も出てくれば、課題となっております大企業の巻き込みということでも前進できるのではないかと考えております。

### (松本委員長)

- ・ありがとうございます。ハブでやっている訳ではないんですが、「関西イノベーションハブ」というのをつくりまして、別に拠点があるわけじゃなくて単なる勉強会ですが、関西の企業何社か集まっています。ヘルスケアとか健康とか一緒に新しいビジネスをつかっていくための勉強会です。これは今6社でやっているんですけども、サントリーさん、塩野義製薬さん、ダイキン工業さん、日東電工さん、阪急阪神ホールディングスさん、それと大阪ガスで、ヘルスケアとか健康、これは関西では結構、特区にもなっていて取り組まれているところが多くて目先のことはやっているのですが、もう少し先の事を一緒に考えましょう、できれば何か事業を生み出そうと。東京でフューチャーセンター研究会というものが別途ありまして、今度タイアップしてイベントやるんですけども、ハブでやろうかと紹介したんですけども、クローズでやりたいとのことで、ハブの規則でウェブに掲載しないといけないというのがありましたので、別のところになったんですけども、結局、大手がこういう何社か集まって新しい事業モデルを考えることを学生やベンチャーを巻き込んでやろうとするときに、フルオープンではなかなかやりにくいところがあるので、もう少し柔軟な対応をすれば、そういうものが沢山出てきたときにここを拠点にしてもらおうということがありうるのかなと思います。実際6社で議論しても何も出てこないんで、ベンチャーとか大学



のシーズとか中小企業さんと一緒に考えていこうという動きがありますので、大阪イノベーションハブのようところが、オープン、セミクローズ的なこともできる、あるいはクローズなこともできる、そういうことにしていただければもっともっと集まってくる気がします。

**(松本委員長)**

- ・かなり沢山ご意見がでてきましたけれど、ちょうど意見が出ましたので、大阪ハッカーズクラブに対するヒアリングのまとめが資料3にありますので、これの説明をお願いします。

**(事務局)**

- ・資料3「大阪ハッカーズクラブメンバー（プレイヤー、パートナー）へのヒアリング状況について」説明

**(松本委員長)**

- ・今のヒアリングの結果について、委員の皆様からご意見などございましたらお願いします。

**(吉原委員)**

- ・もうすでに最初に申し上げたのですが、追加で、今後の大阪イノベーションハブの展開についてなんですけれども、大変良い進み方をしているのは事実で、これからまた前に進んでいかなければならない中でですね、ふと思ったのは、今の安倍さんの内閣の中に地方を活性化するための担当、それから予算が付いていますよね。ああいう地方活性化が大きなテーマになっている中で、来年度、再来年度に向けて大阪イノベーションハブに省庁の方からですね、それが資金的な援助になるのか、それとも彼らが持っている何らかのネットワークを使ってですね、より一層効率的に大阪イノベーションハブの目的を達成するのに役立つものをうまく使って協業していくとかですね、具体的には細かい内容は浮かばないのですが、一度大阪市として、地方を活性化するというプログラムを統括管理されている方とお話をされてはいかがかと。そうした事を追加で言っておきます。

**(松本委員長)**

- ・ありがとうございます。他の委員の方いかがですか？ 田路さん、いかがですか？

**(田路委員)**

- ・さきほどの松本委員のお話に戻るんですけども、関西イノベーション研究会ということで、大企業の巻き込み方なんですけれども、おっしゃるとおり、大企業のこれからの方向性を普通にパブリックに見せるということは問題があると思います。だけど、本当の大枠の方向性、例えばヘルスケアであればヘルスケアとか、ただ、それをどう細かく落としていくかというときに、どうイノベーションハブの活動を巻き込むかな

んですけれど、お題を与えてですね、ハッカソンを学生向けとか起業家向けにやってみてもらって、そして良かったら採用しましょうという。このやり方は米国でももちろんやっていますけど、最近ではリクルートがそういう事をやってみて。ある程度オープンにして、細かいところはクローズにするんですね。で優勝したら、本当にやってみようというようなことをやっていますので、出来ないわけじゃないと思うんですね。だからある程度お題はオープンだけど、発表会をクローズにしてもいいのかもしれない。その方が企業も情報とか協力はしやすいし、それをやらしてもらって側、学生とか自分で起業しようとしている人も真剣にコミットできるのかもしれない。そういうのもやってみるとおもしろいかと思います。以上です。

#### **(松本委員長)**

- ・ありがとうございます。外村さんいかがですか？

#### **(外村委員)**

- ・私は、さっき時間が無くなることを思って、いろいろ言ってしまいましたので、追加では特にありません。

#### **(松本委員長)**

- ・やっぱりですね、大手企業の巻き込みというのも、ひとつ大きな課題ということですが、大手企業はですね、空前のオープンイノベーションブームになっておりましてですね、オープンイノベーション推進者交流会議というのを、この評議会でも紹介したのですが、まあ非常に第1期が好評でして、第2期をぜひやってくれという声大手企業から沢山出てきて、実は昨日ですね東京で第2期のオープンイノベーション推進者交流会議がスタートしました。で、今までオープンイノベーションなんかやったことのない企業がですね、ほんとうに60名集まって来て、これは8回くらいやるんですが、多様な30~40社来られたんですけれども、おもしろいのは経済産業省や文部科学省もオブザーバーでどうしても見たいと来られていました。国がオープンイノベーションをこれからどうゆう形で支援するかを相当検討されておりますので。ところが、来た企業のかかなりのウェイトが大阪の企業で、わざわざ東京まで行ってるんですね。で、大阪でもこんなやってくれという声も実はかなり聞いています。私は、大阪だけでやるのはどうかと思い、東京でやっているんですけれども、ほとんどの企業が、イノベーションのやり方そのものを分からずに、でもトップからやれと言われて、困り果てて手法を検討しに来ているので、こうゆうふうなものをですね、ハブで仕掛けていくという。大手を巻き込むようなプログラムを企画するのも大事ではないかと。大手だけでは、これ何も起こらない。ここで、いろんな多様なパートナーが集まる場、それで大手が集まればベンチャーさんも意欲的になるケースもありますし、そこにファンドとかが介在し、大学も巻き込む。そうゆうのをぜひ仕掛けていったらいいのかなと。たまたま四国で四国地域コンソーシアムというのをつくられて、これは産から学へのプレゼンテーションを去年からやっていて、ぜひやってくれということで、6社がプレゼンをやるんですけれども、これがおもしろいのはJ S

Tが昔、東京で産から学へやってたんですけどね、あれは東京でやっているとどんな大学が来るか分からない。ところが地域でまると地域の25の大学、高専が必ず聞きに来てくれる。だから大手もここへ行けば地域の大学の方々が聞いてくれるので効率的なんです。例えば関西でもそういう仕掛けをやるとか。あくまで例ですが。

- そのへんをやることによって、経産省さんとか文科省さん、関経連さんも巻き込んで、国の資金もここへ入り、大手企業もこれで行けるのであれば、ある程度の費用負担も覚悟すると思うんですね。そんなこともぜひ、考えていただければと思います。

- 他の委員、ご意見よろしいですかね。最後に何かあれば。よろしいですか。時間もだいぶ経っていますので。それでは、最後に大阪市の理事から。

### **(大阪市・吉川理事)**

- 評価委員の皆様、お世話になっております。ありがとうございます。本日もまた貴重なご意見を頂きありがとうございます。ほんとに自立化と発展というキーワードです。ねブレイクダウンしながら頑張っていきたいと思います。
- 大企業の巻き込みの論点に関しましても、NTT西日本さんとかMBSさんとか、サンスターさんとか、いろいろなネタが出始めておりますし、松本委員長がご指摘頂いたこともあるかと思っていますので、引き続き自立化に向けて取り組んでいきたいと思っています。引き続きよろしくご指導ください。ありがとうございました。

### **(松本委員長)**

- 長時間の会議にご参加ありがとうございました。いろんなご意見をいただきまして、これを踏まえて今後の事業にぜひ事務局のメンバーの方々、3年間の丁度節目ですので、今日のご意見を踏まえて大改革されることを期待しております。
- 委員の皆様ありがとうございました。
- 事務局から最後連絡事項などがあればお願いします。

### **(事務局)**

- 長時間ありがとうございました。またこのご意見を踏まえて今年度取り組んでいきます。
- また、先ほど説明にもありましたけれども、2月10日に国際イノベーション会議を開催させていただきますので、委員の皆様もご都合が合えば、ぜひご参加ください。よろしくお願ひ致します。
- 本日は以上です。

以上